

■参考資料／沖縄春季キャンプについて

①【沖縄春季キャンプ概況】

- 沖縄は年間を通して比較的暖かく、受入環境が整っている
- 毎年多くのプロ野球球団が春季キャンプ実施している（2016年春日韓15球団／日本9球団、韓国6球団）
- 球団が集積していることで練習試合等のマッチングがしやすい環境である
- 春季キャンプは好きな球団や選手を間近で観ることができる特別な時期である
- 離島のキャンプは、練習試合の相手が課題だが、2016年春は石垣島で千葉ロッテマリーンズと台湾プロ野球球団ラミゴモンキーズが交流試合を行い、台湾から石垣島への誘客、国際交流等に貢献した。

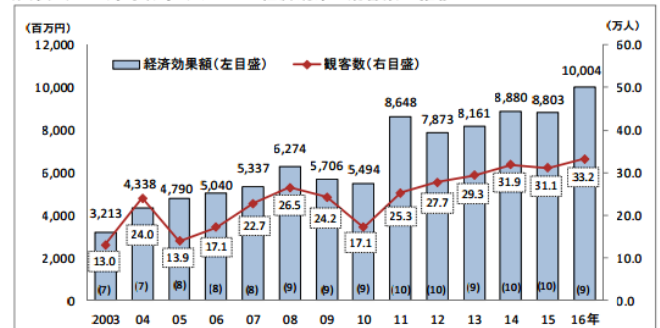
②【2016年に見る沖縄春季キャンプ経済効果】

〔調査レポート〕 沖縄県内における 2016年プロ野球春季キャンプの経済効果は過去最高となる100億400万円（2016年6月りゅうぎん総合研究所「沖縄県内における2016年プロ野球春季キャンプの経済効果」より転載）

〔要旨〕

- 2016年の沖縄県内におけるプロ野球春季キャンプの経済効果は100億400万円となり、2014年の88億8,000万円を上回り過去最高となった。
- 観客数は、約33万2,000人で過去最高となり、入域観光客数が好調に推移する中、新監督や注目選手が多数キャンプ入りしたことなどで観客数が増え、前年より約2万500人増加した。
- 観客数のうち県外からの観客は約6万6,000人と推測され前年より約1万2,000人増加した。
- 今年の経済効果は、2軍キャンプの1球団減少や、施設等整備費などの減少があったが、前年に引続き県外からの観客の大幅増による宿泊費や飲食費の増加、土産・グッズ購入費の増加などが底上げし、過去最高となった。
- また、今年の経済効果を産業別に多い方からみると、宿泊業17億8,200万円、飲食サービス（飲食店など）が12億1,300万円、商業が11億8,800万円などの順であった。
- 今年の経済効果を球団別にみると阪神タイガースが34億7,900万円と最も多く、次いで読売ジャイアンツが15億7,300万円であった。
- プロバスケットボールやプロサッカーをはじめ、多くのスポーツコンベンションの推進による地域振興は今後も沖縄経済に好影響を与えることが期待できるため、老朽化した施設や、駐車場や宿泊施設などの周辺施設の整備や更新が重要な課題であり、それらが充実することが、よりスポーツビジネス産業の発展に寄与していくものと考えられる。

（図表5）プロ野球春季キャンプの経済効果と観客数の推移



※（ ）内は沖縄県内でキャンプを実施する国内プロ野球の球団数

※出典：りゅうぎん総合研究所 調査レポート (<http://www.ryugin-ri.co.jp/tyousareport/2595.html>)

③【2017年春季プロ野球沖縄キャンプの見所】

- 3月の第4回ワールド・ベースボール・クラシック（WBC）開催を控え、各チームの沖縄キャンプには日本・韓国から代表選手が多数集結する見込み。
- 沖縄セルラースタジアム那覇（那覇市）で、以下の練習試合が予定されている
 - ・2月19日（日）WBC韓国代表 vs. 読売ジャイアンツ
 - ・2月22日（水）WBC韓国代表 vs. 横浜DeNAベイスターズ
- 沖縄県内オープン戦
 - ・2月25日（土）4試合、2月26日（日）に3試合を予定